令和4年度 No.10

駒岡小学校だより

２月号

成長のチャンス

副校長　霜田 恵子

春の訪れが待ち遠しい毎日です。この寒空の下、休み時間に元気いっぱい校庭を走り回っている子どもの姿を見て、無邪気な子どもたちの笑顔から元気をもらっています。澄んだ目と素直な心が曇ることの無いように、すくすく成長してほしいなあと心から願います。

さて、かわいい駒っ子たちですが、子どもたちに喧嘩やもめごとはつきものです。学校でもトラブルの無い日はありません。しかし、これらのもめごとや喧嘩を解決する過程で、子どもたちは自己を振り返り、物事を深く考える力をつけます。そして、自分の気持ちを伝えたり相手との誤解を解いたりして他者とコミュニケーションする力を育んでいきます。きっと、相手の気持ちや周囲の気持ちを想像する力もつけていくでしょう。さらに、思いどおりにならないことや失敗を体験しながら、少し苦手な人との付き合い方や距離の取り方なども身に付け、社会性を培っていくと考えます。だから、もめごとは子どもが大きく成長するチャンスとも言えます。

私たち教員は、子どもが喧嘩やトラブルについて訴えてきたら、まず、どちらの主張にも耳を傾けて、「解決＝子どもの成長、健全育成」を目指して子どもたちに丁寧に関わります。自分のやってしまったことをしっかり客観的に見つめ、正直に話し、しっかり反省できるように支援や指導を行います。自分の非を認めようとせず、他人のせいばかりにして反省の機会を奪うことは、その人の成長のチャンスを摘むことになるからです。子どもだけでなく人間は、自分にとって都合のよいように解釈しがちな生き物です。責められたくない、叱られたくないという意識が働き、自分にとって不都合な部分を省略して伝えたり、「やったこと」より「やられたこと」を大げさに伝えたりするものです。それに加えて「価値観の多様化」が叫ばれ、考え方・家庭の方針も多種多様となった現在、認識がずれたり意見が食い違ったりすることがますます増えています。

価値観が多様化したとしても、大人がやって罪に問われることは、子どもだって決して許されない、他者を傷つけることも決して許されないというスタンスで子どもたちに関わっていきたいと考えます。近い将来、自立して社会に出ていく子どもたちが、大人になるための練習をする場が学校です。就学期間に、他者と共に生きるために必要な判断力や社会性を育てていかなければなりません。将来ある子どもたちが、何度も同じ間違いを起こさないように、失敗からきちんと学ぶことができるように、正していくことが、私たち大人の役目です。正直で、仲間を大切にできる素敵な人材を育むために、学校と家庭と地域とが手を取り合っていけたら…と思います。子どもたちを温かく見守り、ときには「愛ある厳しいご指導」もいただきたいと思います。今後とも、本校の教育活動に、ご理解とご協力をお願いいたします。